

住まいと暮らしのデザインブック

住まいnet新潟

vol.38

AUTUMN & WINTER 2024-2025

550yen

WWW.SUMAI-NIIGATA.NET

和の趣と

特集

誌上で完成見学会

新潟の住宅実例集

住まいづくりの
アイデアを探して 憩う空間

読者プレゼント!

資料請求された方々に多数プレゼントをご用意しております



CONTENTS

特集 ライフスタイル提案

012 和の趣と

誌上で完成見学会

051 新潟の住宅実例集

052 イエライフ／小出建設株式会社

058 アットホームラボ／株式会社アオキ住建

064 オーガニックスタジオ新潟株式会社

070 roomz 株式会社星野建築事務所

076 株式会社松尾工務店

082 株式会社高田建築事務所

088 キズナハウジング／株式会社小池

094 株式会社石田伸一建築事務所

100 ダイケンアーキテクト／株式会社大建建設

106 有限会社大恭建興

112 和ごころ工房／大栄建設株式会社

118 株式会社フラワーホーム

124 T's home／津野建設株式会社

Welcome to Modelhouse

133 モデルハウスへようこそ

134 LOCAL LIFE STANDARD／株式会社池田組

新潟の冬と夏を快適に

141 建てるなら雪国型ZEHの住まい

147 ビルダーレポート

148 ディテールホーム／坂井建設株式会社

154 デジモ?／株式会社モリタ装芸

158 株式会社瀬賀工務店

162 株式会社カタチ創庫

164 グリーンスタイル／ダイエープロビス株式会社

166 株式会社山築 一級建築士事務所

特集 住まいづくりのアイデアを探して

170 憩う空間

特集 月刊スマホ家マガジン

201 ワンニャン家

225 ビルダーズモア

250 ものの生まれるところへ

住まいNET新潟読者プレゼント

257 資料請求方法



Vol.38
AUTUMN & WINTER
2024-2025

Cover Story

東に向けた窓から、中庭の木々を通して朝日が差し込む。土間に映る木の影は日々、うつろう。窓を開けると緑が香った。森の片隅に、軽く屋根をかけたような空間。ここは、仕事場でもある。

新潟市西蒲区 金子邸

Photograph: Noriki Matsuzaki

そのデザインに 確かなクオリティを

家族の想い、素材、構造、
一つ一つの意匠を丁寧に積みあげたシンプルな住まい。
そして、住まう人の個性を生かす「余白」を残し
「無駄なものが削ぎ落とされて
洗練された空間」をご提案いたします。



ARCHITRIBE

株式会社アーキトライブ

〒950-0813 新潟市東区大形本町5-19-23 TEL 025-288-6694 www.architribe.jp



資料請求をして頂いた方先着30名様にクオ・カード
500円分をプレゼント。*詳細は257ページをご覧ください。
スマートフォンからでも資料請求できます。

小さな喜びは
足元に、頭上に、
目の前に

何だろう。

ふと、足を止める瞬間がある。

足の裏に伝わる感覚、

昨日までと違う色、

高くなった秋の空。

ちょっとした違和感、

それは時に、

季節の訪れを知らせる小さなサイン。

季節が巡り、重なり合ううちに

思いもかけない景色が現れることがある。

気づいた時の小さな喜び。

例えばこの写真。

気づきましたか？

180度回転しています。

繁華街の隅っこ。

よく知っている道を、

いつもと違う方向に曲がったら。

ツタに覆われた壁面は

時間と季節の重なりを物語り

ありきたりの景色が特別になることを

教えてくれる。

屋上には宇宙と交信するかのアンテナ。

心を宙に飛ばして、

小さな喜びを探したら。



CLIENT

このまま進めていいのか、
踏み切れなかった時、
新しい道を示してもらいました

相談者 新潟市北区 Sさんご家族



あなたにぴったりの
住宅会社を紹介します

「このまま進めていいのかな」。
迷った時にもラウンジへ

新潟市中央区鳥屋野地区。緑に囲まれた「S.H.S 鳥屋野店」の一角に「住まいNET新潟ラウンジ」はある。S夫妻がお子さんと一緒に訪れたのは、3年ほど前。家を建てようと思い、別の会社とプランまで進んでいた時だった。「ラウンジの紹介で家を建てた友だちから「行って見たら」と薦められたんです。すぐにアポイントを入れたのは、二人の中に踏み切れない思いがあったこと、そして気になっていた会社について聞いてみたかったからだという。「出してもらっていたプランは、決め手に欠けていたというか。別の会社だったらもっと違う提案をもらえるかもしれないと思って」。住まいNET新潟ラウンジは、「何から始めていいかわからない」という時だけでなく、立ち止まった時に別の選択肢を提示する役割もある。アドバイザーの細貝貞子さんは「大きな買い物だけに、迷ったり不安が生まれたりするのは当然。第三者の立場で選択肢を示し、背中を押してあげられれば」と話す。S夫妻は初めての面談で「もう少しいかなかった場合も断りを入れてもらえる」と聞いて気持ちが楽になった。「予算についても相談しやすかった」と振り返る。例えば、気になっているビルダーが予算内で可能かどうか、目安を提示してもらい、ローン返済や借入れと合わせて検討できた。「ビルダーや担当者について、ホームページなどには載っていない特徴も教えてもらい、心構えができたのもありがたかったですね」。

S夫妻はインスタで知った会社を含めた3社と面談し、ダイケンアーキテクトを選んだ。「結局、気になっていたビルダーに決めましたが、いろいろな会社に来て話したことで、納得して進むことができました」と奥さま。ご主人は「坪単価いくら」ではない家づくりを知ることができて良かった。価格から自由になって選べました」と話した。「何から始めていいかわからない」という方はもちろん、進める中で迷いが生まれた時、「ほかの選択肢があるかもしれない」と思った時も、ラウンジは次に踏み出すきっかけをくれる。

ADVISER

迷っている時には
選択肢を示して背中を押す。
それもラウンジの役割です

アドバイザー 細貝貞子



住まいnet新潟
LOUNGE

特集

和の 趣と

なぜだろう、とても心地いい。
初めて来たはずなのに、落ち着く。
室内ながら外にいるよう。
そんな思いを抱く住まいには
どこかに必ず「和」の趣がある。
私たちの中に刻まれた「日本」を
心地よさの形を
住まいの中に探してみた。

撮影 松崎典樹





右頁／RCのガレージからは壁を挟んで庭と建物がほのかに見える。直線で切り取られた窓のような空間。あえて壁の上を抜くことで奥行きを出している 左頁・上／設計した天野一博さん曰く「景観をつくっている」RCのガレージ。二世帯で車好きな家族から「6、7台は駐めたい」とリクエスト。上はテラスに。ガレージも家も、斉藤さんの経営する工務店が施工 下／ガレージの左半分はガラスと壁で囲われ、バイクなども収納



見え隠れの向こうに、緑と建築

RCの窓からのぞく緑のレイヤー。その向こうに建築。

奥行き、見えないものを思い描く眼に
「和」が重なる。

新潟市南区 斉藤邸

土、石、デッキ、室内。
外と内の境界が
消えるように、自然に

住宅街で、ふと足が止まる。水平ラインが際立つRCの構造体。そこはガレージであり、庭につながる開口であり、さらに「和」を語る窓でもある。RCの四角いトンネル、その先を見ればRCの低い壁、上部の抜けは、緑のレイヤーが浮かぶだろう。壁の手前、超えた壁際、庭の中。緑が織りなす重なりの中、ほの見える外壁へと視線が伸び、自然と歩みが誘われる。見え隠れが生む奥行き、先には何があるのだろうか。想像を生む仕掛けこそ、和の趣だ。

誘われるまま中庭に入ると、地面はそのままウッドデッキへ、さらに室内の床へと伸び、すべてが平面的につながっている。段差は、あまりない。建築家アントニン・レーモンドは日本の民家を「葎(きのこ)か、木のように大地に生えたもの」と言った。なるほど、地面に低く接して建つ齊藤邸も、そう見える。ただ、雪も湿気も多い新潟である。最低限の基礎高を設け、風を通した上で「木のように」生えさせた。

設計した天野博さんは、土の地面から石へ、建築へと自然につながるらしいに、日本らしさがあると言う。境界を曖昧にするために、いつものごとくデッキに石をかませ、盛り土をして庭から室内を平面的につなげた。デッキも、室内へと引き込むことで全体になじみ、「後付け」の不自然さがない。

さつきまで石を踏んでいたはずの足元は、いつの間にかデッキの上となり、すると室内に。外と内がつながり一体化する建築。どこにいても風と緑の中。ともかくにも、心地いい。

室内から庭を見る。室内とウッドデッキはほぼフラットにつながり、外と内が一体化している。L字型で奥行きのあるウッドデッキは、娘さん家族も集まって大人数でBBQをしても余裕の広さ





株式会社石田伸一建築事務所

西蒲原郡弥彦村 1 邸 | 木造軸組工法 | 工期150日 | フリープラン

里山に、カフェのある平屋の住まい

坂道の途中、小高いところに建つ二軒の平屋。三角屋根と木の壁の佇まいは、家なのか店なのか、少し迷う。シンプルでいて特別な空気を放つこの建物、カフェを併設した店舗兼住宅だ。

石川県から移り住むことになったI夫妻。結婚して二十数年、既に家も建てていたが、ご主人の仕事をきっかけに、新潟に暮らしていくことを選んだ。「お米はおいしいし、すぐそばに自然がある。空も広くて、犬と散歩に出かけるだけで楽しいと思えました」。奥さまはこの地で、カフェの夢も叶えたいと思っていた。

「里山を感じられるところに店舗兼住宅を建てよう」。二人の中には、イメージがあった。数年前、「住まいre+新潟」で見た木の平屋。シンプルで、木の外壁がアプローチの緑や周辺の緑と心地よくつながっていた。「見てすぐに『設計したのはだれだろう』と思いました。こう話すご主人は、店舗設計に関わったことも

ある、いわばプロ。いろいろ調べて、その後、建築事務所を開くことになった石田伸一さんにたどり着いた。早速、会いに行くと、初対面で話が盛り上がった。奥さまは「実現できるといふ絵が見えた」と言い、ご主人は「任せていに出会えたと思った」と振り返る。「あの時点で、お願いしよう」と心が決まったんだと思います。

ただ、土地探しは難航した。ご主人の通勤30分圏内で探したが、なかなか見つからない。しばらくしてエリアを弥彦に絞ると、良さそうな土地があった。広さは十分で、周囲に家はなく緑が広がっていた。道路から少し上る高台も二人で店をするにはかえっていいだろう」と考えた。こうしてプランが動き始めた。

右頁／住宅の一角にあるカフェ「alegre（アレグレ）」。屋根の傾斜そのままに合板を張った三角天井が印象的。左頁・上／店舗兼住宅である1邸の外観。左にカフェ。庭から伸びたコンクリートの橋は、上にお客さんが立ったり座ったりして撮影スポットにも下／カフェの奥には縦長の窓に面した席。背面の壁は外壁と同じ鉋張りに。玄関土間につながり、住まいと直接、行き来できる

EXAMPLE REPORT

08

「どんな暮らしがしたいですか?」和ごころ工房はいつも、こう聞くところから始める。どんな家が欲しいかではなく、どう過ごしたいか。家族ごとに違うライフスタイルから間取りを導き、趣味や好みを織り込み、「暮らしを活かす」のが同社の家づくりだ。

ご主人がまず伝えたのは、生活音が伝わりないようにすることだった。夜勤があつて生活リズムが違うことから、家族の生活を邪魔したくないという。さらに2人でキッチンに立つこと、アウトドアの趣味があること、そして奥さまからは「二人で籠るような場所が欲しい」と要望があつた。設計を担当したプランナーは、M夫妻にお互いを思いやる気持ちを強く感じ、二人の気持ちに寄り添ってプランニング。寝室を2階に置いて水回り空間やLDKと離し、さらに趣味の道具を置くよう玄関のファミリークロークを広めに確保、そしてヌックを窓際に置いた。「ヌックの場所についてはかなり検討しました」とプランナー。一人の時間をつくらんと考えれば、奥まった場所が順当だろうが、ほどよい距離感がありつつ家族の気配を感じられる方が、二人にはいいのではないかとさらに眺めも楽しめればもったいない時間になるはず。こうしてLDKの片隅、アールの垂れ壁でゆるやかに仕切つてもう一つの居場所が生まれた。

和ごころ工房の提案には、暮ら

どこにいても家族の気配。

吹き抜けとヌックのあるLDK

しやすさもあつた。「2階にランドリースペースと聞いて初めは驚いたんですが、すごく楽です」。洗って干して乾いたら、ハンガーにかけたまま寝室脇のウォークインクローゼットへ。さらに冷暖房は、吹き抜けなどの区切らない間取りと相性のいい「パッシブ冷暖」を採用。エアコン一台で全館に空気を巡らせるため、2階の洗濯物は乾きやすいというメリットも生まれているという。

「何一つあきらめることなく、すべて叶えてもらいました」と二人は満足を口にする。ヌックは、家を建てている間に生まれたお子さんの昼寝にも理想的で、キッチンに立てば、LDKのどこかで遊んでいても目に入る。二人で始めた家づくりは、家族の器となつて着地した。



— LAYOUT



1F



2F

— DATA

- 敷地面積 / 223.80㎡ (67.00坪)
- 延床面積 / 113.86㎡ (34.44坪)
- 1階面積 / 84.05㎡ (25.42坪)
- 2階面積 / 29.81㎡ (9.01坪)
- 工 法 / 木造軸組工法
- 基 礎 / ベタ基礎
- 断 熱 材 / 充填断熱
- 屋 根 材 / ガルバリウム鋼板
- 外 装 材 / 金属サイディング
- 内 装 材 / 塗り壁、クロス
- 床 材 / 無垢材
- 開 口 部 / YKK AP APW330, APW430
- キッチン / クリナップ
- バスルーム / クリナップ
- そ の 他 / 自社造作建具・家具、薪ストーブ
- 竣工年月 / 2023年12月
- 家族構成 / 夫婦

株式会社松尾工務店

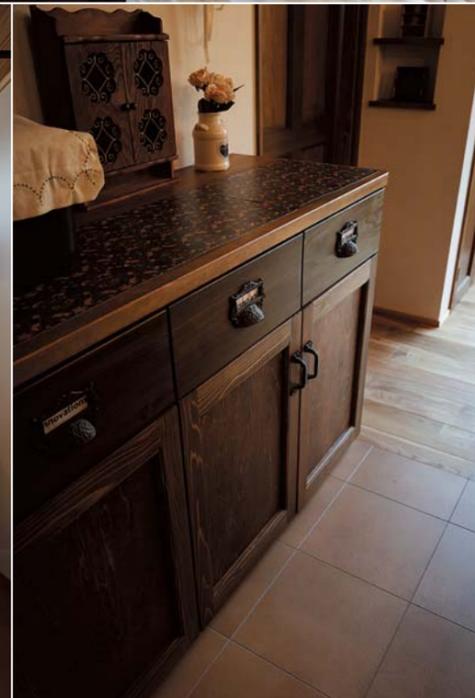
〒956-0012 新潟市秋葉区荻野町118-12
Tel 0250-23-2372 Fax 0250-23-3879

詳しい企業情報は「ビルダーズモア」をご覧ください。

05



資料請求をして頂いた方先着30名様にクオカード500円分をプレゼント。※詳細は257ページをご覧ください。スマートフォンから資料請求できます。



上 / 洋裁が趣味という奥さまの作業部屋。古いミシンを使ってリビングに置いたフロアランプのシェードなども手作り。壁は松尾雄一社長と一緒に塗ったという珪藻土の塗り壁 中左 / リビングと奥さまの趣味部屋を仕切る壁には縦長の窓をつけて 中右 / 1階にある主寝室もレトロな雰囲気。引き戸は額縁のような枠を付けて西洋風に 下 / 2階にあるご主人の個室。一面に本棚があり、左奥のガラス窓で1階とゆるやかにつながる

上 / アッシュ材を使ったカウンター付きのキッチン。背面にあるカップボードは造作。カウンターの上にはアンティークのファイヤースクリーンを設置。アイアン製で開け閉めができる 下左 / 玄関を入ると、壁にはアンティークの建具が飾られている。土間はご主人の趣味のバイクの置き場所としても活躍 下中 / キッチン裏側にある洗面スペース。鏡はアンティークで洗面台や吊り棚は造作 下右 / 家づくりのきっかけとなったカップボード。奥さまが欲しかったアンティーク品を参考にオリジナルで製作。取っ手のデザインにもこだわって

一部吹き抜けになったLDK。床、天井、階段、造作家具などに木を使う、落ち着いた雰囲気。右手、太鼓張りの障子の小国和紙とともに、自然素材の温もりが空間を満たしている。



Welcome to Modelhouse 14

県内初。少ないエネルギーで快適に暮らす ドイツ発祥の「超」省エネ住宅

厳しい省エネ基準をクリアして認定された「パッシブハウス」。
県内で一棟目となるこのモデルハウスは
自然を利用して、快適さと省エネ性を最大限実現している。

長岡パッシブハウス
LOCAL LIFE STANDARD / 株式会社池田組



自然を操作し、自然エネルギーを利用した究極のエコハウス。半規格住宅として提案



2階部分は秋田杉、1階部分はとん壁、ゆったりとしたアプローチ、木の目隠しや庭の緑と溶け合って、安らぎを生んでいる



上 / LDKの一角には小上がりの和室。天井にはリブ状のツガ、和室の壁は小国和紙、窓には断熱性能の高い木製サッシを採用。吹き抜けは暖気を上げ、冷気を落とす役割も果たす。下右 / 造作の洗面スペースとトイレをコンパクトに集約。下左 / 玄関に入ると、自然素材と造作家具、オフホワイトがすっきりとした印象を生む



安田瓦を乗せた三角屋根の二軒家。秋田杉やとん壁が緑と溶け合う中、室内に入ると木と小国和紙に包まれる。縁側を介して外とつながる開放感と自然素材の温もり。いるだけで安らぎを感じられる住まいだ。

これまで、ローカルライフスタンダードが手がけてきた家と変わらない印象だが、このモデルハウスはもう一つ、別の顔を持っている。日本ではまだ100棟ほど、新潟県で第1棟目となる「パッシブハウス」であるということ。パッシブハウスとはドイツ生

「パッシブハウス」というものを、体感してみてもほしい」と池田専務は話す。例えば、高気密高断熱の躯体の中、床下エアコンと熱交換器、第1種換気システムによって、さわやかな空気と温度が家じゅうをめぐる心地よさ。性能の進化によって、大きく切ることができるようになった開口による開放感。そして「見ている分らないがパッシブを取り入れた省エネ性。設計では、南に開いて北に閉じ、南側の軒は深く、南面する窓は日差しを調整する位置に設けられた。「窓の位置ひとつも重要で、例えばこのモデ

ルも南北を逆にしたら燃費が悪くなり、基準を満たせられない。自然をうまく利用して、UA値を高めただけでは実現できない燃費の良さを実現している。だからこそ「究極のエコハウス」と言える。もう一つ、特筆すべきは半規格住宅として提案していること。分譲地にも多い32坪に、4間×4間のシンプルなプランを配置することで、設計費と建築費を抑え、展開性も持たせた「手の届く」省エネ住宅のモデルとした。燃費だけでなく初期費用にも挑んだこの家は、事前予約で見学できる。

Welcome to Modelhouse 14



特集

「憩う」空間

撮影：村井勇

憩うには

どんな場所が理想的なのだろう。

シチュエーションはおそらく、一人。

誰かといたとしても、

プライベートに浸れる瞬間。

手元にはコーヒーやお茶

読みかけの本もあるといいだろう。

緑の中、木の上、田園、街中。

日常から離れて、ひとときに浸れる

そんな場所を探してみた。





待ちながら
茶の所作を前にゆるり

上越市 多賀茶焙煎所

雁木通りの一角、真っ白な暖簾がひらひらと揺れている。町屋らしい、間口狭く奥に長い建物だ。中に入ると、建物をそのまま落とし込んだような長い木のカウンター。ここでは、所作を拝見しながら一服。ゆったりとした動作を眺めていると自然と呼吸も落ち着く。それも憩い。

「憩う」空間
2

古い町屋という空間と茶室という性格に合わせて、店内は和のしつらいに。壁はスサを入れ込んだ土壁で、柱を見せる真壁造りに。床の間を設け、右奥には組木細工の建具も

人にやさしく、あたたかく。
本物の高気密・高断熱住宅を

有限会社大恭建興

〒940-0873 長岡市永田町245-1
フリーダイヤル 0120-839-885
Tel 0258-89-8289 Fax 0258-89-8280



小幡 大樹

1985年、長岡市生まれ。有限会社大恭建興専務取締役。一級建築士。企画営業・設計・現場監理を担当する。誰もが快適に過ごせる住まいを目指し、北海道発の高気密・高断熱住宅を提案している。

代表者 / 小幡富美樹 創業 / 1995年 資本金 / 300万円 従業員 / 11名

事業内容 / 新築住宅・店舗の設計・施工・監理、リフォーム、リノベーション
取扱い工法 / 木造軸組工法
有資格者 / 一級建築士 3名、二級建築士 2名、1級建築施工管理技士 1名
免許番号 / 建設業許可 新潟県知事(般-2)第41961号
一級建築士事務所 新潟県知事(ハ)第4935号
加盟保証保険 / 株式会社ハウスジメン

50万円未満	50~60万円未満	60~70万円未満
70~80万円未満	80~90万円未満	90万円以上

※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。

取扱いエリア

全県	下越	中越	上越
----	----	----	----

住宅性能

長期優良住宅対応	ZEH対応
----------	-------

構造計算

全棟実施	要望により	非対応	標準耐震等級
			1 2 3



daikyo-kenko.co.jp



資料請求番号 10
スマートフォンからでも
資料請求できます。

立地を生かした高性能な家に
インダストリアルをプラス

ダイケンアーキテクト
株式会社大建建設

[浜谷町本店] 〒950-0034 新潟市東区浜谷町1-2-6
フリーダイヤル 0800-800-7433 Fax 025-288-6150
[河渡スタジオ] 〒950-0024 新潟市東区河渡2-2-12
Tel 025-271-6366 Fax 025-271-7307
[坂井東スタジオ] 〒950-2041 新潟市西区坂井東1-13-1
Tel 025-232-1166 Fax 025-232-1203



高橋 尚久

二級建築士・専務取締役。設計士としてお客様一人ひとりのライフスタイルやお好みを“暮らし方”に焦点をあて提案。大規模リフォームやリノベーションの経験も豊富で、様々な視点からの住まいの提案を得意とする。

代表者 / 高橋秀彰 創業 / 1968年 資本金 / 6,800万円 従業員 / 40名

事業内容 / 住宅事業(新築、リノベーション、リフォーム、不動産) 土木事業(公共、建築、他)
取扱い工法 / 木造軸組工法
有資格者 / 一級建築士 3名、二級建築士 7名、宅地建物取引士 5名
1級建築大工技能士 2名
免許番号 / 建設業許可 新潟県知事(特-3)第2630号
一級建築士事務所 新潟県知事(二)第4333号
宅地建物取引業 新潟県知事(3)第5167号
加盟保証保険 / 株式会社日本住宅保証検査機構 (JIO)

取扱い坪単価

50万円未満	50~60万円未満	60~70万円未満
70~80万円未満	80~90万円未満	90万円以上

※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。

取扱いエリア

全県	下越	中越	上越
----	----	----	----

住宅性能

長期優良住宅対応	ZEH対応
----------	-------

構造計算

全棟実施	要望により	非対応	標準耐震等級
			1 2 3



www.daiken-architects.com



資料請求番号 09
スマートフォンからでも
資料請求できます。



耐熱ガラスをバーナーの炎で溶かし、成形するバーナーワーク。
ガラスがやわらかくなったところで形をつくったり、パーツを取
り付けたりする。タイミングを逃せば失敗になるため、五感をフ
ル稼働して頃合いを計っている

もの
の
生まれる
ところへ

撮影／渡邊久男

硝子工房
クラフト・ユー

炎が生み出す
ガラスの造形

接ぎ目なくつながる
三次曲面のガラス。
型で抜かれたように見えるが
ひとつひとつが手作り。
パーツを作り、溶接しながら
その手跡が見えない完成形に至らせる。
技と感覚が溶け合う製作現場を訪ねた。

独学で技術を極め 工房開設

バーナーから吹き出す緋色の中で、滑らかな曲面が姿を現す。まっすぐだったチューブはアールを描き、丸い筒は蓋の形となつて丸いツマミが引つ張り出される。硝子工房クラフト・ユーは、耐熱ガラスをバーナーの炎で溶融し、成形するバーナーワークを専門に行う。1991年に徳間保則さんが一人で開設し、現在は4人でティーポットやグラス、ピッチャーなどの日用品を製作。「おもしろそうだな、自分でもやってみよう」と柏崎に戻って開いたんです」。徳間さんはそれまで、東京都に本社を置く耐熱ガラスのメーカーに勤めていた。キッチンまわりの日用品をはじめ調理器具や理化学用品を製造している日本有数の会社。ただ部署は製造部門ではなく営業部門だった。「もともと手先は器用だったと思います。職人を見ているうちにできるんじゃないか、とね」。軽やかに言うが、工程を見れば分かる通り、相当の技術が要されることは間違いない。徳間さんは試行錯誤を続け、自力で技術を確立した。